

# 数字でみるかわさきの20年 女性管理職

川崎市男女共同参画センター(すくらむ21)が1999年9月に開館して昨年20周年を迎えました。62号から、20周年記念行事の一環として、かわさきの20年の変化を数字でみるシリーズを始めました。第4回は、「女性管理職」です。市役所と市立小中高校における女性管理職割合から、ここ20年の変化を見てみましょう。

## 市役所における女性管理職割合

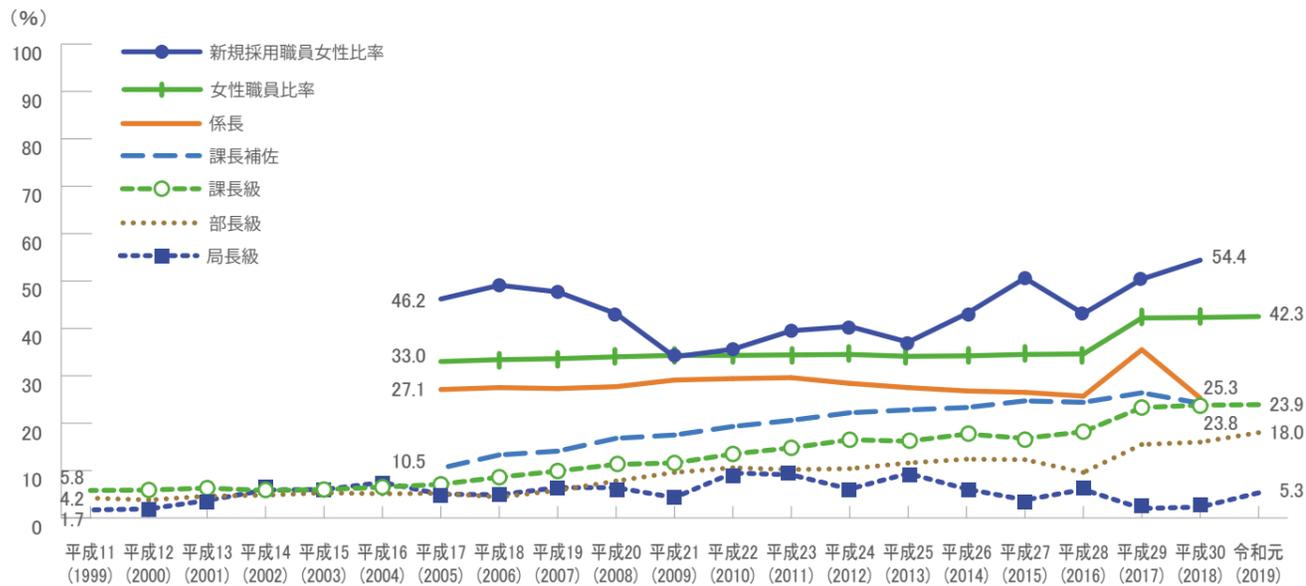
**5.8% から 23.9%** (1999年川崎市、課長級) (2019年川崎市、課長級)

**4.2% から 18.0%** (1999年川崎市、部長級) (2019年川崎市、部長級)

**1.7% から 5.3%** (1999年川崎市、局長級) (2019年川崎市、局長級)

**変化のポイント①**  
課長級以上が管理職だが、その課長級でみると、1999年の時点では女性は約17人に1人程度だったのが、2019年時点で約4人に1人程度になった。  
部長級では、4.2% (24人に1人) だったのが18.0% (5.6人に1人) に、局長級では、1.7% (59人に1人) から5.3% (19人に1人) になった。

川崎市役所における女性管理職割合の推移 (1999~2019年)



注) 課長級、部長級、局長級については、市役所人事課よりデータの提供を受けた。新規採用職員女性比率、女性職員比率、係長、課長補佐については、川崎市男女平等推進行動計画〜かわさき☆かがやきプラン〜年次報告書から。各年4月1日時点。なお、平成28(2016)年度から県費で雇用していた教職員が市に移管されたことによる影響により、平成29(2017)年度の管理職における女性割合が微増している。

参考文献等  
川崎市「川崎市職員の人事に関する統計報告」<http://www.city.kawasaki.jp/940/page/0000044198.html> (2019.12.24閲覧)  
川崎市「川崎市の学校(学校基本調査)一昭62~平成30年度学校基本調査結果」[http://www.city.kawasaki.jp/shisei/category/51-4-7-2-0-0-0-0.html](http://www.city.kawasaki.jp/shisei/category/51-4-7-2-0-0-0-0-0.html) (2020.1.12閲覧)  
川崎市男女平等推進審議会「答申：川崎市における男女平等推進行動計画について 2003(平成15)年11月10日公表」<http://www.city.kawasaki.jp/250/cmsfiles/contents/0000001/1317/genjo.pdf> (2020.1.12閲覧)  
内閣府男女共同参画局『令和元年版 男女共同参画白書』2019年6月

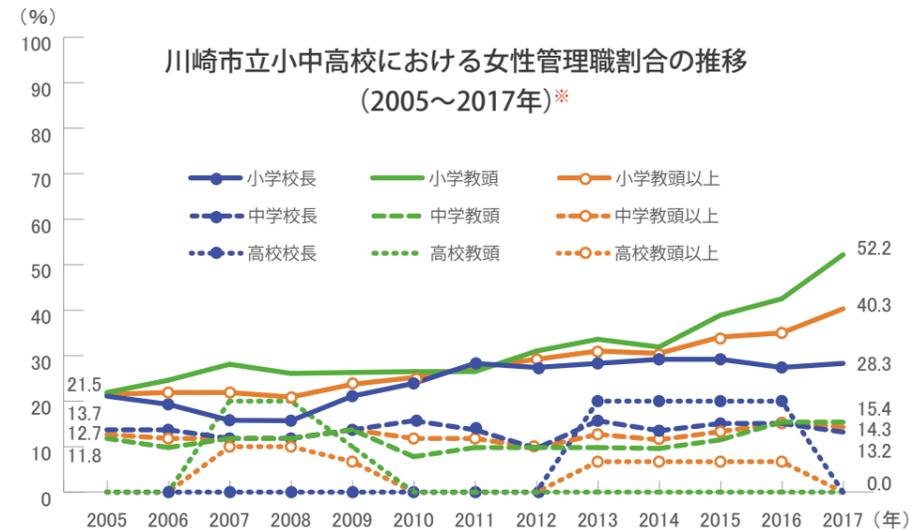
## 市立小中高校における女性管理職割合

**変化のポイント②**  
小中高校においては、校長・教頭(学校によっては副校長)が管理職であるが、教頭以上の女性割合は、小学校では全国と比較してかなり高いものの、高等学校ではないという状況が続いている。

**21.5% から 40.3%** (2005年川崎市立小学校) (2017年川崎市立小学校) ※ **22.9%** (2018年全国)

**12.7% から 14.3%** (2005年川崎市立中学校) (2017年川崎市立中学校) ※ **9.7%** (2018年全国)

**0% から 0%** (2005年川崎市立高等学校) (2017年川崎市立高等学校) ※ **8.8%** (2018年全国)

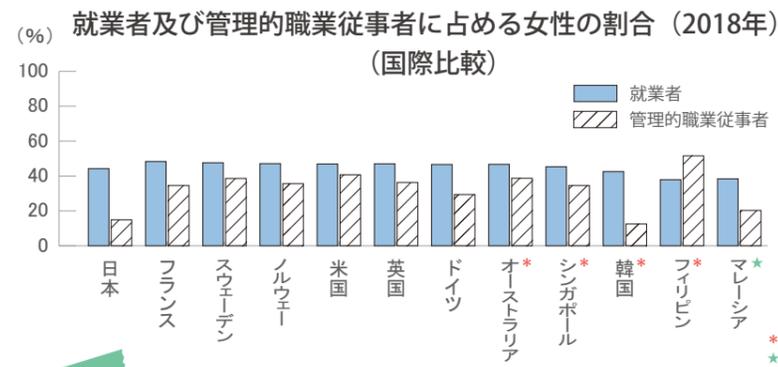


管理職輩出率 (%)

		1988年度	1998年度	2008年度	2018年度
小学校長	女性	0.4	1.1	0.8	1.5
	男性	8.2	8.7	8.1	5.5
小学教頭	女性	0.6	1.3	1.3	2.2
	男性	7.9	8.4	7.2	4.3
中学校長	女性	0.0	0.7	0.9	0.7
	男性	4.1	4.8	4.6	4.4
中学教頭	女性	0.2	1.2	0.9	1.3
	男性	4.0	4.6	4.6	4.0

※入手できたデータ範囲で掲載しています。

## (参考) 管理的職業従事者に占める女性の割合 (国際比較)



**変化のポイント③**  
各国の状況と比較すると、就業者に占める女性の割合は多くの国で4割以上になっており、日本も同じである。しかしながら、管理的職業従事者に占める女性の割合は、日本は、韓国のほうが若干低いものの、同程度に女性割合が著しく低い国であることがわかる。

## まとめ

管理職輩出率(管理職の性別を分子とし、全教員に占める性别人数を分母として計算)を見てみると、女性に比べて、男性のほうが管理職になる人が多いことがわかる。小中高で一番女性校長の多い小学校では、1988年度に20倍以上の違いがあったが、1998年度(7.9倍)、2008年度(10.1倍)を経て、2018年度では3.7倍に縮んだ。  
今後も引き続き、女性管理職を増やす取り組みが必要である。管理職になった女性割合だけでなく、管理職になりうる職位(課長補佐、係長級)の女性たちの割合をモニターすることや、採用の際の女性割合を高めることが重要だと思われる。